



**ハヤブサジャパン 平成27年度バスケットボール男子日本代表チーム
日本代表候補選手発表および活動開始 記者会見**

報道資料

— 2015年6月15日(月) —

2020年東京オリンピック出場へ向けた戦略計画

長年、オリンピック出場から遠のいている男子日本代表は、2020年東京オリンピック出場に向けて、前提条件となる前年(2019年)の「FIBA ワールドカップ」の出場権獲得を目標に、2017年からホーム&アウェイ方式で行われるアジア・オセアニア予選で戦える選手の育成と、そこで勝ち抜くチーム力をつけていくことを目指す。

そのために、リオデジャネイロオリンピック予選となるFIBA ASIA選手権が開催される今年度は、リオデジャネイロオリンピックの出場権獲得にもチャレンジしつつ、現実的には2017年以降を見据え、「個人のレベルアップ」「日本代表チームのアドバンテージの明確化」「勝利を追求するチーム」の3つをテーマに掲げ、若手選手の育成により重きを置き、強化活動を進めていく。

特に、オフェンス面においては、確率の高い3Pシュートなど、“シュート力”により磨きをかけ、タイミングや緩急を使った精度の高い“スクリーンプレイ”を目指す。また、ディフェンス面においては、“運動量、予測力、チェンジング、メンタリティ”を向上させ、組織的かつ効果的なディフェンスを駆使していく。さらに、弱点として指摘されているフィジカル面においては、体格差を埋めるためのトレーニングを工夫し、また海外遠征等の実戦形式で諸外国の強さを体感し、経験しながら鍛えていく。

常に世界を見据えた高い意識を持ち、「規律・勤勉・協力・情熱・実行」の5つのキーワードを、コート内外で表現できる日本代表選手の育成を行う。

平成27年度バスケットボール男子日本代表チーム 強化のポイント

- 個人のレベルアップ
⇒常に競争心を持ち、世界で通用するプレイを身に付ける。
- 日本代表チームのアドバンテージの明確化
⇒正確な3Pシュートなど、自分たちが他国より勝っている点を認識・理解し、意識的に強みを生かして伸ばしていく。また、一つ一つのプレイの精度と緻密さを求め、運動量を増やしたバスケットを作り上げる。
- 勝利を追求するチーム
⇒強敵に立ち向かう強い意志と、勝利への貪欲さを持った強いメンタリティを追求していく。

平成27年度バスケットボール男子日本代表チーム 活動計画

- 活動日程
本年は、第28回FIBA ASIA男子バスケットボール大会(9月23日～10月3日/中国・長沙)に向けて、6月15日から活動開始。第1次～第6次の強化合宿の開催を予定している。当面は国内強化合宿にて強化活動を行い、資格停止解除後に、海外遠征等が実施できるようにし、国際試合の経験不足を補い、レベルアップを図る。FIBA ASIA選手権まで約3か月、ほぼ休みなく強化合宿を繰り返し、お互いが競争・刺激し合いながら、課題を一つ一つクリアにし、強化を進めていく。

- チーム編成
平成27年度バスケットボール男子日本代表候補選手は、20年ぶりに銅メダルを獲得したアジア競技大会(2014年9月/韓国)のメンバーに加え、2017年以降を見据えた若手の有望選手など、「チームに貢献できる得意なプレイ」を確立している選手、27名を選出した。強化合宿を重ねながら、最終的な12名の大会に挑むメンバーを選考していく。また、2017年以降の男子国際大会の競技方法変更に向け、常に強いベストなチームを作るため、現状候補メンバー外であっても、卓越した選手、好調な選手がいれば、その都度追加召集を行う。

- 大会目標
第28回FIBA ASIA男子バスケットボール選手権大会 ベスト4

No.	合宿・遠征・大会	期 間	場 所
1	第1次強化合宿	6/15(月)～6/22(月)	味の素ナショナルトレーニングセンター
2	第2次強化合宿	6/26(金)～7/2(木)	味の素ナショナルトレーニングセンター
3	第3次強化合宿	7/9(木)～7/19(日)	味の素ナショナルトレーニングセンター
4	第4次強化合宿(海外遠征)	7/24(金)～8/13(木)	味の素ナショナルトレーニングセンター 渡航地:調整中
5	国際親善試合2015 ※対戦国:未定	8月中旬予定	会場:調整中
6	第5次強化合宿(海外遠征)	8/24(月)～9/6(日)	味の素ナショナルトレーニングセンター 渡航地:調整中
7	第6次強化合宿	9/14(月)～9/19(土)	味の素ナショナルトレーニングセンター
8	第28回FIBA ASIA男子 バスケットボール選手権大会 (兼 2016年リオデジャネイロオリンピック アジア地区予選)	9/23(水)～10/3(土)	中国・長沙

※強化活動スケジュールは変更になる場合がございます。

※第4次強化合宿(海外遠征)は、6/18・19に開催されるFIBAエグゼグティブコミッティーの審議結果に応じ実施します。

※国際親善試合2015及び第5次強化合宿(海外遠征)の開催、第28回FIBA ASIA男子バスケットボール選手権大会の出場は、8/7～9に東京で開催されるFIBAセントラルボードの審議結果により認められます。

● 第28回FIBA ASIA男子バスケットボール選手権大会 大会概要

- **大会名称** 第28回FIBA ASIA男子バスケットボール選手権大会
兼 2016年リオデジャネイロオリンピック アジア地区予選
- **開催期間** 2015 (H27) 年9月23日 (水)～10月3日 (土)
- **開催地** 中国・長沙
- **会場** ※未定
- **参加チーム** 全16チーム(予定)
 - ・中国 (開催地)
 - ・イラン (第5回FIBA ASIAカップ 優勝チーム(2014年/中国))
 - ・東アジア 4チーム
 - ・東南アジア 3チーム
 - ・南アジア 1チーム
 - ・西アジア 3チーム
 - ・湾岸 2チーム
 - ・中央アジア 1チーム
- **オリンピック出場権/世界最終予選出場権**
 - ・今大会の優勝チームには「第31回オリンピック競技大会(2016/リオデジャネイロ)」の出場権が与えられる
 - ・今大会の2位および3位チームには「FIBA男子オリンピック世界最終予選(2016/開催地未定)」の出場権が与えられる

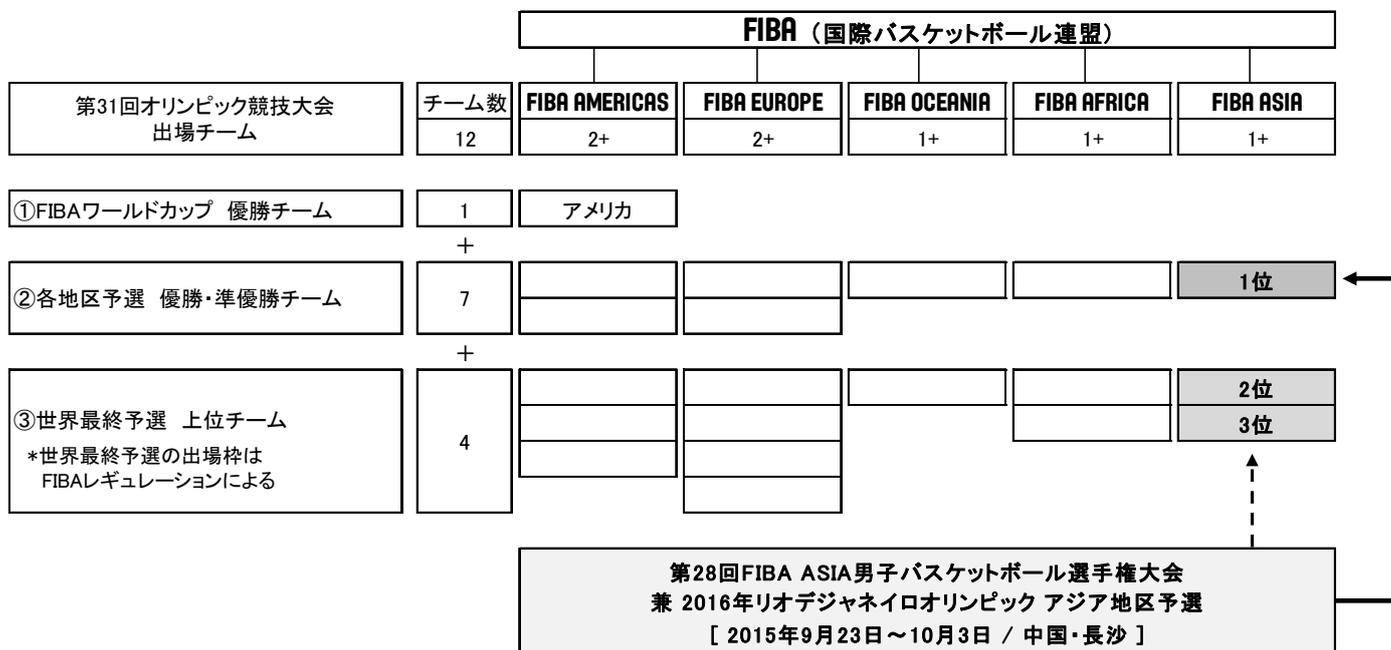
● 第31回オリンピック競技大会 (2016/リオデジャネイロ) 出場の仕組み

第31回オリンピック競技大会(2016/リオデジャネイロ)には、以下12チームが出場できる。

- ① FIBAワールドカップ(2014年/スペイン)の優勝チーム : 1チーム(アメリカ)
- ② FIBAを構成する5つのゾーンの各地区予選の優勝・準優勝チーム : 7チーム
- ③ FIBA男子オリンピック世界最終予選(2016年/開催地未定)の上位チーム : 4チーム ※

※FIBA(国際バスケットボール連盟)の判断により、第31回オリンピック競技大会で開催国(ブラジル)に出場枠を与える場合には、世界最終予選の出場枠が「3チーム」へと変更になる。

なお、開催国の出場枠は2015年8月7日～9日のFIBAセントラルボードにて決定する予定。



■チームスタッフ

		氏名 (LASTNAME, Firstname)	所属
チームリーダー	Team Leader	堀井 幹也 (HORII, Mikiya)	公益財団法人日本バスケットボール協会
ヘッドコーチ	Head Coach	長谷川 健志 (HASEGAWA, Kenji)	公益財団法人日本バスケットボール協会
アシスタントコーチ	Assistant Coach	佐藤 賢次 (SATO, Kenji)	東芝ブレイブサンダース神奈川
アシスタントコーチ	Assistant Coach	佐々 宜央 (SASSA, Norio)	リンク栃木ブレックス
総括	Team Manager	古海 五月 (FURUMI, Satsuki)	公益財団法人日本バスケットボール協会
S&Cコーチ	S&C Coach	國友 亮佑 (KUNITOMO, Ryosuke)	公益財団法人日本バスケットボール協会
トレーナー	Trainer	西村 航 (NISHIMURA, Wataru)	公益財団法人日本バスケットボール協会
マネージャー	Staff Manager	宮本 望 (MIYAMOTO, Nozomi)	リンク栃木ブレックス
テクニカルスタッフ	Technical Staff	末広 朋也 (SUEHIRO, Tomoya)	公益財団法人日本バスケットボール協会

■選手

No.	氏名 (LASTNAME, Firstname)	P	身長	体重	生年月日 (年齢)	所属	出身校	出身地	代表歴
1	田臥 勇太 (TABUSE, Yuta)	PG	173	70	1980/10/05 (34)	リンク栃木ブレックス	ブリガムヤング大学ハイワイ校	神奈川県	◆◇
2	太田 敦也 (OTA, Atsuya)	C	206	112	1984/06/04 (31)	浜松・東三河フェニックス	日本大学	愛知県	■□◆◇
3	石崎 巧 (ISHIZAKI, Takumi)	PG	188	88	1984/07/06 (30)	三菱電機ダイヤモンドドルフィンズ名古屋	東海大学	福井県	■□◆◇
4	竹内 譲次 (TAKEUCHI, Joji)	PF	207	98	1985/01/29 (30)	日立サンロッカーズ東京	東海大学	大阪府	■□◆◇
5	広瀬 健太 (HIROSE, Kenta)	SF	193	90	1985/07/11 (29)	日立サンロッカーズ東京	青山学院大学	島根県	□◆◇
6	松井 啓十郎 (MATSUI, Keijuro)	SG	188	83	1985/10/16 (29)	トヨタ自動車アルバルク東京	コロンビア大学	東京都	◆◇
7	川村 卓也 (KAWAMURA, Takuya)	SG	193	92	1986/04/24 (29)		県立盛岡南高校	岩手県	□◆◇
8	荒尾 岳 (ARAO, Gaku)	PF	198	97	1987/01/15 (28)	千葉ジェッツ	青山学院大学	富山県	◆◇
9	古川 孝敏 (FURUKAWA, Takatoshi)	SG	190	92	1987/10/20 (27)	リンク栃木ブレックス	東海大学	兵庫県	■□◆◇
10	栗原 貴宏 (KURIHARA, Takahiro)	SF	192	86	1987/11/06 (27)	東芝ブレイブサンダース神奈川	日本大学	福島県	□◆◇
11	小野 龍猛 (ONO, Ryumo)	SF	198	100	1988/01/06 (27)	千葉ジェッツ	中央大学	東京都	■□
12	渡邊 裕規 (WATANABE, Hironori)	PG	180	78	1988/03/22 (27)	リンク栃木ブレックス	青山学院大学	神奈川県	□◆◇
13	橋本 竜馬 (HASHIMOTO, Ryoma)	PG	178	81	1988/05/11 (27)	アイシンシーホース三河	青山学院大学	福岡県	★
14	金丸 晃輔 (KANAMARU, Kosuke)	SG	192	88	1989/03/08 (26)	アイシンシーホース三河	明治大学	福岡県	■□◆◇
15	辻 直人 (TSUJI, Naoto)	PG	185	82	1989/09/08 (25)	東芝ブレイブサンダース神奈川	青山学院大学	大阪府	■□◆◇
16	満原 優樹 (MITSUHARA, Yuki)	PF	198	102	1989/12/27 (25)	日立サンロッカーズ東京	東海大学	神奈川県	□◇
17	田口 成浩 (TAGUCHI, Shigehiro)	SG	184	84	1990/03/25 (25)	秋田ノーザンハビネッツ	富士大学	秋田県	★
18	比江島 慎 (HIEJIMA, Makoto)	PG	190	88	1990/08/11 (24)	アイシンシーホース三河	青山学院大学	福岡県	■□◆◇
19	熊谷 尚也 (KUMAGAE, Naoya)	SF	194	88	1990/11/16 (24)	リンク栃木ブレックス	日本体育大学	福岡県	□
20	永吉 佑也 (NAGAYOSHI, Yuya)	PF	198	115	1991/07/14 (23)	東芝ブレイブサンダース神奈川	青山学院大学	鹿児島県	□◆◇
21	田中 大貴 (TANAKA, Daiki)	SG	192	93	1991/09/03 (23)	トヨタ自動車アルバルク東京	東海大学	長崎県	■□◆◇
22	張本 天傑 (HARIMOTO, Tenketsu)	SF	197	102	1992/01/08 (23)	トヨタ自動車アルバルク東京	青山学院大学	愛知県	■□◇
23	野本 建吾 (NOMOTO, Kengo)	SF	199	97	1992/04/25 (23)	東芝ブレイブサンダース神奈川	青山学院大学	兵庫県	□◆◇
24	富樫 勇樹 (TOGASHI, Yuki)	PG	167	67	1993/07/30 (21)		モントロス・クリスチャン高校	新潟県	■□◇
25	渡邊 雄太 (WATANABE, Yuta)	SF	203	88	1994/10/13 (20)	ジョージ・ワシントン大学 1年	セント・トーマス・モア・スクール	香川県	□◆◇
26	馬場 雄大 (BABA, Yudai)	PG	195	88	1995/11/07 (19)	筑波大学 2年	富山第一高校	富山県	★
27	八村 塁 (HACHIMURA, Rui)	SF	198	95	1998/02/08 (17)	明成高校 3年	富山市立奥田中学校	富山県	★
--	平均 (Average)	--	191.7	90.5	25.7		--		

MEMO: 年齢・所属は2015 (H27) 年6月15日現在

ポジション (P): PG-ポイントガード、SG-シューティングガード、SF-スモールフォワード、PF-パワーフォワード、C-センター

代表歴: ★-初選出、■-平成26年度日本代表選手、□-平成26年度日本代表候補選手、◆-平成25年度以前の日本代表選手、

◇-平成25年度以前の日本代表候補選手

1		<p>たぶせ ゆうた 田臥 勇太</p> <p>PG / 173cm / 70kg 1980年10月5日 (34歳) 神奈川県出身 / リンク栃木ブレックス</p>	<p>●日本代表歴 アジア競技大会(2010年・4位) FIBA ASIAカップ(2010年・2位)</p> <p>●プレイの特徴 ここ数年、悩まされていた怪我から完全復活を果たし、4年ぶりに日本代表復帰。日本人初のNBAプレイヤー。NBLでは2シーズン連続アシスト王。磨き上げられたコートビジョンでチームメイトの得点チャンスを作り出す華麗なアシストに加え、得点能力に長けたプレイヤー</p>
2		<p>おおた あつや 太田 敦也</p> <p>C / 206cm / 112kg 1984年6月4日 (31歳) 愛知県出身 / 浜松・東三河フェニックス</p>	<p>●日本代表歴 FIBA ASIA選手権(2011年・3位 / 2013年・9位) FIBA ASIAカップ(2012年・2位 / 2014年・6位) アジア競技大会(2014年・3位)</p> <p>●プレイの特徴 TK bjリーグ2014-2015で浜松・東三河の優勝に大きく貢献。身体を張ったリバウンドなど、フィジカルの強さでゴール下を支配するセンター</p>
3		<p>いしがき たくみ 石崎 巧</p> <p>PG / 188cm / 88kg 1984年7月6日 (30歳) 福井県出身 / 三菱電機ダイヤモンドドルフィンズ名古屋</p>	<p>●日本代表歴 FIBA ASIA選手権(2011年・7位) 東アジア選手権(2009年・2位 / 2011年・2位) FIBA ASIAカップ(2010年・2位 / 2014年・6位) アジア競技大会(2010年・4位 / 2014年・3位) 東アジア選手権(2009年・3位)</p> <p>●プレイの特徴 ドイツでのプレイ経験を持ち、パリエーションの広いオフェンスでチームをけん引するポイントガード</p>
4		<p>たけうち じょうじ 竹内 譲次</p> <p>PF / 207cm / 98kg 1985年1月29日 (30歳) 大阪府出身 / 日立サンロッカーズ東京</p>	<p>●日本代表歴 FIBA世界選手権(2006年・17位) FIBA ASIA選手権(2005年・5位 / 2007年・8位 / 2009年・10位 / 2011年・7位) 東アジア選手権(2009年・2位 / 2011年・2位) FIBA ASIAカップ(2004年・5位 / 2014年・6位) アジア競技大会(2006年・6位 / 2010年・4位 / 2014年・3位) 東アジア競技大会(2005年・2位 / 2009年・3位)</p> <p>●プレイの特徴 双子の兄・公輔とともに、長年、日本代表の絶対的な存在として、チームを引っ張るビッグマン。豊富な国際経験を生かし、幅広いプレイで勝利へと導く</p>
5		<p>ひろせ けんた 広瀬 健太</p> <p>SF / 193cm / 90kg 1985年7月11日 (29歳) 島根県出身 / 日立サンロッカーズ東京</p>	<p>●日本代表歴 FIBA ASIA選手権(2011年・7位) 東アジア選手権(2011年・2位) FIBA ASIAカップ(2010年・2位) アジア競技大会(2010年・4位) 東アジア競技大会(2009年・3位)</p> <p>●プレイの特徴 オフェンスでは先頭を切って走り速攻に持ち込むなど、スピードを活かしたプレイと精度が増した3Pシュート、タフなディフェンスが持ち味</p>
6		<p>まつい けいじゅうろう 松井 啓十郎</p> <p>SG / 188cm / 83kg 1985年10月16日 (29歳) 東京都出身 / トヨタ自動車アルパルク東京</p>	<p>●日本代表歴 FIBA ASIA選手権(2011年・7位 / 2013年・9位) 東アジア選手権(2013年・3位) FIBA ASIAカップ(2010年・2位)</p> <p>●プレイの特徴 クリックリリースから次々とリングを射抜くピュアシューター。ゾーンに入ると止められない3Pシュートは必見</p>

7		<p>かわむら たくや 川村 卓也</p> <p>SG / 193cm / 92kg</p> <p>1986年4月24日 (29歳)</p> <p>岩手県出身</p>	<p>●日本代表歴 FIBA世界選手権(2006年・17位) FIBA ASIA選手権(2005年・5位 / 2007年・8位 / 2011年・7位、ベスト5) 東アジア選手権(2011年・2位) FIBA ASIAカップ(2010年・2位) 東アジア競技大会(2005年・2位)</p> <p>●プレイの特徴 2011年FIBA ASIA選手権でベスト5を受賞。チームを勝利へと導く優れた嗅覚を持ち、得点、アシストとオールラウンドな活躍を見せる</p>
8		<p>あらお がく 荒尾 岳</p> <p>PF / 198cm / 97kg</p> <p>1987年1月15日 (28歳)</p> <p>富山県出身 / 千葉ジェッツ</p>	<p>●日本代表歴 東アジア競技大会(2009年・3位)</p> <p>●プレイの特徴 身体を張ったリバウンドや、走力を活かしたトランジションバスケットを得意とするパワーフォワード</p>
9		<p>ふるかわ たかとし 古川 孝敏</p> <p>SG / 190cm / 92kg</p> <p>1987年10月20日 (27歳)</p> <p>兵庫県出身 / リンク栃木ブレックス</p>	<p>●日本代表歴 東アジア選手権(2011年・2位) FIBA ASIAカップ(2012年・2位) アジア競技大会(2014年・3位)</p> <p>●プレイの特徴 フィジカルの強さを活かした激しいディフェンスや、確率の高い3Pシュートなど、ハッスルプレイでチームを勢いづける</p>
10		<p>くりはら たかひろ 栗原 貴宏</p> <p>SF / 192cm / 86kg</p> <p>1987年11月6日 (27歳)</p> <p>福島県出身 / 東芝ブレイブサンダース神奈川</p>	<p>●日本代表歴 FIBA ASIA選手権(2013年・9位) 東アジア選手権(2013年・3位) FIBA ASIAカップ(2012年・2位)</p> <p>●プレイの特徴 日本屈指のディフェンダー。派手さはないが、献身的なプレイでチームを鼓舞する</p>
11		<p>おの りゅうも 小野 龍猛</p> <p>SF / 198cm / 100kg</p> <p>1988年1月6日 (27歳)</p> <p>東京都出身 / 千葉ジェッツ</p>	<p>●日本代表歴 アジア競技大会(2014年・3位) FIBA ASIAカップ(2014年・6位)</p> <p>●プレイの特徴 アウトサイド・インサイドと、どこからでも得点することができるマルチプレイヤー</p>
12		<p>わたなべ ひろのり 渡邊 裕規</p> <p>PG / 180cm / 78kg</p> <p>1988年3月22日 (27歳)</p> <p>神奈川県出身 / リンク栃木ブレックス</p>	<p>●日本代表歴 FIBA ASIAカップ(2012年・2位)</p> <p>●プレイの特徴 強気なリードと攻撃力を生かしたゲームコントロールが武器。熱いハートを持ち、司令塔としてチームを引っ張る</p>

13		<p>はしもと りょうま 橋本 竜馬</p> <p>PG / 178cm / 81kg 1988年5月11日 (27歳) 福岡県出身 / アイシンシーホース三河</p>	<p>●日本代表歴 初選出</p> <p>●プレイの特徴 NBL2014-2015で優勝を遂げたアイシン三河で、スタメンポイントガードを務める成長著しいプレイヤー。脚力を活かしたアグレッシブ且つ執拗なディフェンスで、ボールマンを苦しめる</p>
14		<p>かなまる こうすけ 金丸 晃輔</p> <p>SG / 192cm / 88kg 1989年3月8日 (26歳) 福岡県出身 / アイシンシーホース三河</p>	<p>●日本代表歴 FIBA ASIA選手権(2013年・9位) 東アジア選手権(2011年・2位 / 2013年・3位) FIBA ASIAカップ(2012年・2位 / 2014年・6位) アジア競技大会(2014年・3位)</p> <p>●プレイの特徴 内外問わず多彩な攻撃パターンと得点能力を持つスコアマシン。NBL2014-2015では3ポイント王を獲得し、プレーオフMVPに輝くなど、日本のエースとして成長</p>
15		<p>つじ なおと 辻 直人</p> <p>PG / 185cm / 82kg 1989年9月8日 (25歳) 大阪府出身 / 東芝ブレイブサンダース神奈川</p>	<p>●日本代表歴 FIBA ASIA選手権(2013年・9位) 東アジア選手権(2013年・3位) アジア競技大会(2014年・3位)</p> <p>●プレイの特徴 2013-2014シーズン、NBL初代プレーオフMVPを獲得。高確率で射抜くアウトサイドシュートをはじめ、相手の意表を突くアシストパスと、あらゆる状況で得点に絡む</p>
16		<p>みつはら ゆうき 満原 優樹</p> <p>PF / 198cm / 102kg 1989年12月27日 (25歳) 神奈川県出身 / 日立サンロッカーズ東京</p>	<p>●日本代表歴 2010年・2011年・2014年 日本代表候補選手</p> <p>●プレイの特徴 力強いインサイドプレイと外角シュート力を武器とし、得意のキラーパスで味方の得点にも貢献する</p>
17		<p>たぐち しげひろ 田口 成浩</p> <p>SG / 184cm / 84kg 1990年3月25日 (25歳) 秋田県出身 / 秋田ノーザンハピネッツ</p>	<p>●日本代表歴 初選出</p> <p>●プレイの特徴 チームに流れを呼び込むテンポの良い3Pシュートや、体を張ったプレイを得意とするプレイヤー。チームの起爆剤としても期待がかかる</p>
18		<p>ひえじま まこと 比江島 慎</p> <p>PG / 190cm / 88kg 1990年8月11日 (24歳) 福岡県出身 / アイシンシーホース三河</p>	<p>●日本代表歴 FIBA ASIA選手権(2013年・9位) 東アジア選手権(2013年・3位) FIBA ASIAカップ(2012年・2位 / 2014年・6位) アジア競技大会(2014年・3位)</p> <p>●プレイの特徴 卓越したボールハンドリングとテクニックを持つファンタジスタ。ここぞという場面で力を発揮し、高い得点能力にアシストと、抜群のセンスを持つ</p>

19		<p>くまがえ なおや 熊谷 尚也</p> <p>SF / 194cm / 88kg 1990年11月16日 (24歳) 福岡県出身 / リンク栃木ブレックス</p>	<p>●日本代表歴 2014年 日本代表候補選手</p> <p>●プレイの特徴 跳躍力を活かしたダンクシュートやリバウンドなど、躍動感あふれるプレイが持ち味</p>
20		<p>ながよし ゆうや 永吉 佑也</p> <p>PF / 198cm / 115kg 1991年7月14日 (23歳) 鹿児島県出身 / 東芝ブレイブサンダース神奈川</p>	<p>●日本代表歴 東アジア選手権(2013年・3位) FIBA ASIAカップ(2012年・2位) 東アジア競技大会(2013年・4位)</p> <p>●プレイの特徴 当たり負けしないフィジカルを活かしたディフェンスなど、ゴール下で奮闘するパワーフォワード</p>
21		<p>たなか だいき 田中 大貴</p> <p>SG / 192cm / 93kg 1991年9月3日 (23歳) 長崎県出身 / トヨタ自動車アルパルク東京</p>	<p>●日本代表歴 FIBA ASIA選手権(2013年・9位) 東アジア選手権(2013年・3位) FIBA ASIAカップ(2012年・2位 / 2014年・6位) アジア競技大会(2014年・3位) 東アジア競技大会(2013年・4位)</p> <p>●プレイの特徴 NBL2014-2015の新人王を獲得。的確な判断力を備え、強固のディフェンスと勝負どころでのクラッチプレイでチームを活気づける期待の成長株</p>
22		<p>はりもと てんけつ 張本 天傑</p> <p>SF / 197cm / 102kg 1992年1月8日 (23歳) 愛知県出身 / トヨタ自動車アルパルク東京</p>	<p>●日本代表歴 FIBA ASIAカップ(2014年・6位) アジア競技大会(2014年・3位)</p> <p>●プレイの特徴 高い身体能力を持つ大型プレイヤー。NBLルーキーシーズンを終えパワーアップした体の強さを活かし、果敢な攻めと粘り強いディフェンスで活躍する</p>
23		<p>ののもと けんご 野本 建吾</p> <p>SF / 199cm / 97kg 1992年4月25日 (23歳) 兵庫県出身 / 東芝ブレイブサンダース神奈川</p>	<p>●日本代表歴 東アジア競技大会(2013年・4位)</p> <p>●プレイの特徴 抜群の走力と跳躍力を活かしたプレイで、内外問わず得点を挙げるオールラウンダー</p>
24		<p>とがし ゆうき 富樫 勇樹</p> <p>PG / 167cm / 67kg 1993年7月30日 (21歳) 新潟県出身</p>	<p>●日本代表歴 アジア競技大会(2014年・3位)</p> <p>●プレイの特徴 昨シーズン(2014-2015年)、NBAの下部リーグであるDリーグのテキサス・レジェンズでプレイし、一回り大きく成長した若き司令塔。小柄ながら、アグレッシブにドライブを仕掛けてアシストを量産するだけでなく、自ら得点を挙げる</p>

25		<p>わたなべ ゆうた 渡邊 雄太</p> <p>SF / 203cm / 88kg 1994年10月13日 (20歳) 香川県出身 / ジョージ・ワシントン大学 1年(NCAA)</p>	<p>●日本代表歴 FIBA ASIA選手権(2013年・9位) 東アジア選手権(2013年・3位)</p> <p>●プレイの特徴 2020年東京オリンピックの中心選手として期待を寄せる大注目プレイヤー。豪快なダンクシュートはもちろん、203cmながらポイントガードからセンターまでこなすオールラウンドな活躍で、NCAAでは1年生ながらシックスマンとしてチームに貢献</p>
26		<p>ばば ゆうだい 馬場 雄大</p> <p>PG / 195cm / 88kg 1995年11月7日 (19歳) 富山県出身 / 筑波大学 2年</p>	<p>●日本代表歴 初選出</p> <p>●プレイの特徴 1on1に強さがあり、鋭いドライブで相手を抜き去る能力を持つ日本大学界のスター。身体能力と運動量を活かしたガッツあふれるプレイに注目</p>
27		<p>はちむら るい 八村 塁</p> <p>SF / 198cm / 95kg 1998年2月8日 (17歳) 富山県出身 / 明成高校 3年</p>	<p>●日本代表歴 初選出</p> <p>●プレイの特徴 2014年FIBA U-17世界選手権で得点王を獲得。強心臓の持ち主で、ずば抜けた身体能力から得点を量産するプレイスタイルは超高校級</p>

ハヤブサジャパン 男子日本代表情報

- FIBAランキング 47位
- 昨年度(平成26年度) 大会成績
 - 第5回FIBA ASIAカップ 6位 (10チーム中)
 - 第36回ウィリアム・ジョーンズカップ(非公式大会/招聘試合) 6位 (8チーム中)
⇒若手を中心にチーム編成
 - 第17回アジア競技大会 3位
⇒20年ぶりにメダル獲得(1994年・第12回大会以来)

ハヤブサジャパンとは？



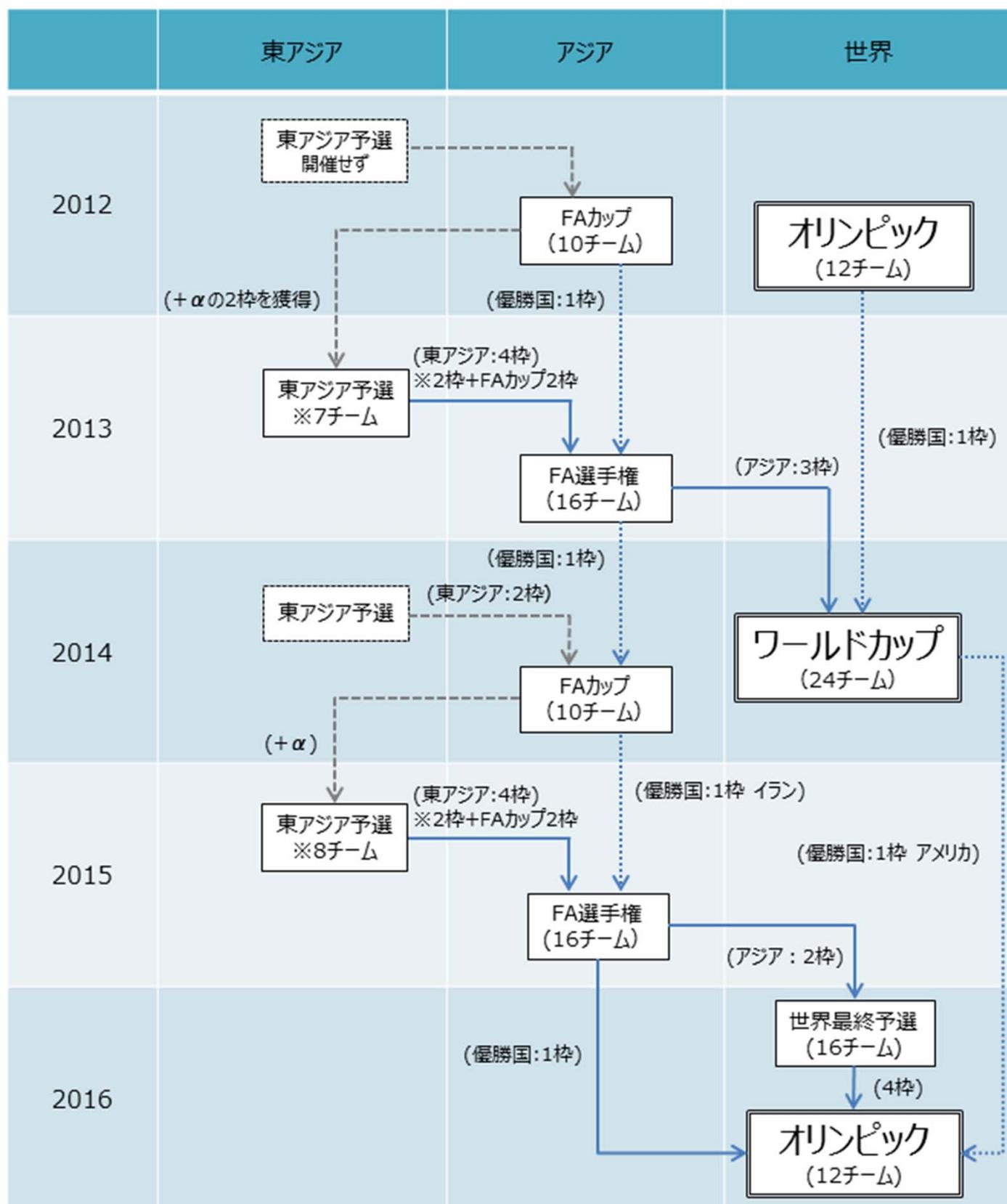
2011年に公募により決定した、バスケットボール日本代表チームの愛称。「早い翼」を名前の由来とし、「世界最速」と言われるスピードと俊敏性をもつハヤブサが、世界と戦う日本バスケットボールのプレイスタイルのスピードやクイックネスを表現している。大空を切り裂くハヤブサのように、コートを縦横無尽に切り裂くように駆けまわり、日本を勝利に導いてほしいという願いが込められている。

また、奇跡の生還と言われた小惑星探査機「はやぶさ」のように、どんな困難に遭遇しても決してあきらめない強い気持ちと、感動を与える日本代表であることを願っている。

獲物を狙う「ハヤブサ」と漢字の「隼」を組合せ、スピード感を表現したデザイン。

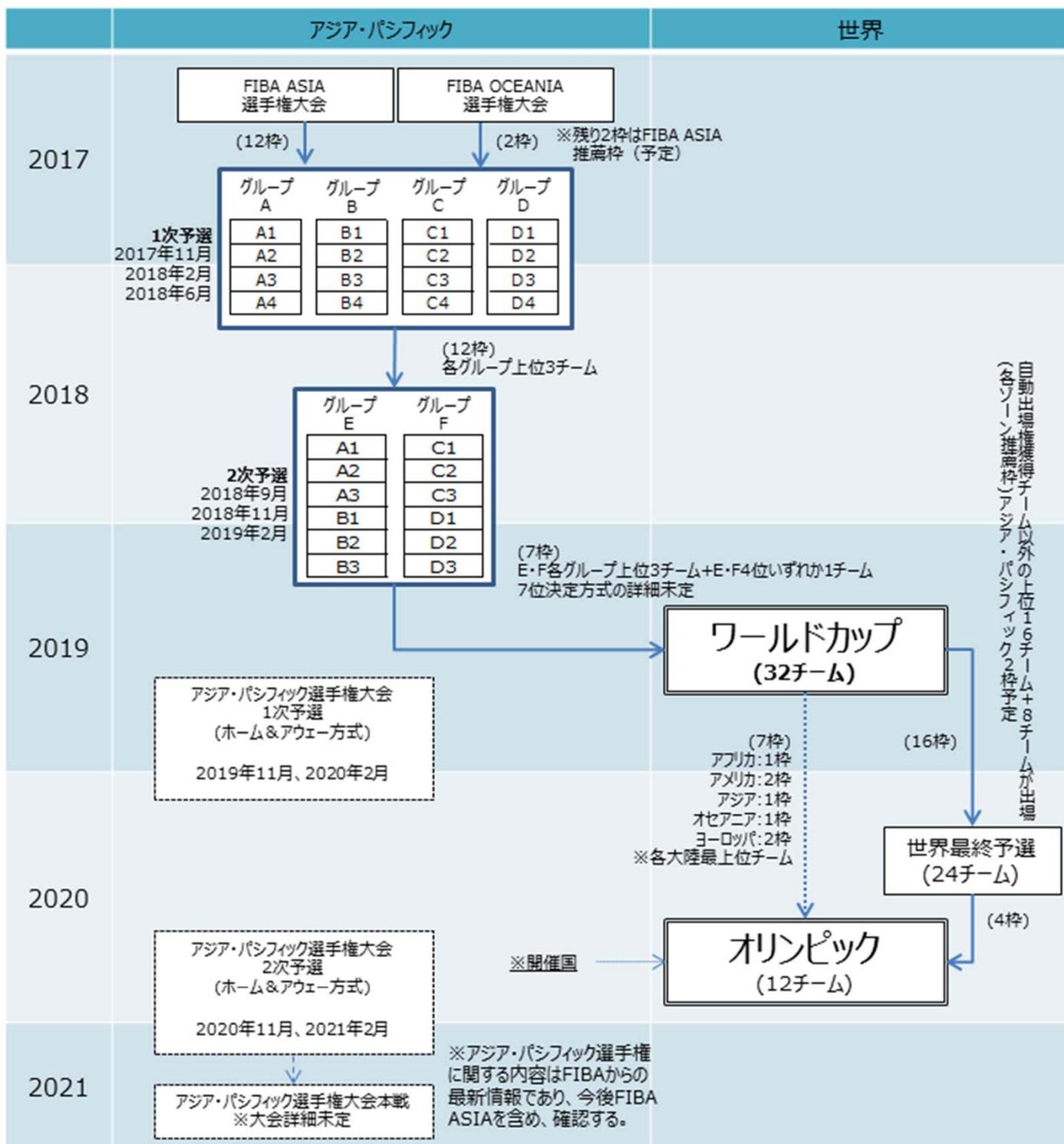
● FIBA (国際バスケットボール連盟) の構成





- ・2014年ワールドカップ出場チーム数：24チーム
枠数()内：開催国(1)、アフリカ(3)、アメリカ(5)、アジア(3)、オセアニア(2)、ヨーロッパ(6)、ワイルドカード(4)
- ・2016年オリンピック出場チーム数：12チーム
枠数：2014WC優勝国(1)、アフリカ(1)、アメリカ(2)、アジア(1)、オセアニア(1)、ヨーロッパ(2)、世界最終予選(4)
※オリンピック開催国の自動出場に関してはFIBA中央理事会が決定。開催国が自動出場権を獲得した場合、世界最終予選の出場枠数が4枠から3枠に減。

※2017年度以降は変更になる可能性あり



- ・2019年ワールドカップ出場チーム数：24チームから32チームに増加
枠数：開催国(1)、アフリカ(5)、アメリカ(7)、アジア・パシフィック(7)、ヨーロッパ(12)
- ・2020年オリンピック出場チーム数：12チーム
枠数：アフリカ(1)、アメリカ(2)、アジア(1)、オセアニア(1)、ヨーロッパ(2)、世界最終予選(4)+開催国
※オリンピック開催国の自動出場に関しては要確認。

●オリンピック(男子) 歴代上位チーム

開催年	回数	開催地	1位	2位	3位	4位	日本
1936	第11回	ドイツ(ベルリン)	アメリカ	カナダ	メキシコ	ポーランド	9-14位
1940	第12回	日本(東京) ※開催中止					※
1944	第13回	イギリス(ロンドン) ※開催中止					※
1948	第14回	イギリス(ロンドン)	アメリカ	フランス	ブラジル	メキシコ	—
1952	第15回	フィンランド(ヘルシンキ)	アメリカ	ソビエト	ウルグアイ	アルゼンチン	—
1956	第16回	オーストラリア(メルボルン)	アメリカ	ソビエト	ウルグアイ	フランス	10位
1960	第17回	イタリア(ローマ)	アメリカ	ソビエト	ブラジル	イタリア	15位
1964	第18回	日本(東京)	アメリカ	ソビエト	ブラジル	プエルトリコ	10位
1968	第19回	メキシコ(メキシコシティ)	アメリカ	ユーゴスラビア	ソビエト	ブラジル	—
1972	第20回	西ドイツ(ミュンヘン)	ソビエト	アメリカ	キューバ	イタリア	14位
1976	第21回	カナダ(モントリオール)	アメリカ	ユーゴスラビア	ソビエト	カナダ	11位
1980	第22回	ソビエト(モスクワ)	ユーゴスラビア	イタリア	ソビエト	スペイン	—
1984	第23回	アメリカ(ロサンゼルス)	アメリカ	スペイン	ユーゴスラビア	カナダ	—
1988	第24回	韓国(ソウル)	ソビエト	ユーゴスラビア	アメリカ	オーストラリア	—
1992	第25回	スペイン(バルセロナ)	アメリカ	クロアチア	リトアニア	CIS 独立国家共同体	—
1996	第26回	アメリカ(アトランタ)	アメリカ	ユーゴスラビア	リトアニア	オーストラリア	—
2000	第27回	オーストラリア(シドニー)	アメリカ	フランス	リトアニア	オーストラリア	—
2004	第28回	ギリシャ(アテネ)	アルゼンチン	イタリア	アメリカ	リトアニア	—
2008	第29回	中国(北京)	アメリカ	スペイン	アルゼンチン	リトアニア	—
2012	第30回	イギリス(ロンドン)	アメリカ	スペイン	ロシア	アルゼンチン	—
2016	第31回	ブラジル(リオデジャネイロ)					
2020	第32回	日本(東京)					

●FIBAワールドカップ(男子) 歴代上位チーム

開催年	回数	開催地	1位	2位	3位	4位	日本
1950	第1回	アルゼンチン(ブエノスアイレス)	アルゼンチン	アメリカ	チリ	ブラジル	—
1954	第2回	ブラジル(リオデジャネイロ)	アメリカ	ブラジル	フィリピン	フランス	—
1959	第3回	チリ(サンチェゴ)	ブラジル	アメリカ	チリ	チャイニーズ・タイペイ	—
1963	第4回	ブラジル(リオデジャネイロ)	ブラジル	ユーゴスラビア	ソビエト	アメリカ	13位
1967	第5回	ウルグアイ(モンテビデオ)	ソビエト	ユーゴスラビア	ブラジル	アメリカ	11位
1970	第6回	ユーゴスラビア(リュブリアナ)	ユーゴスラビア	ブラジル	ソビエト	イタリア	—
1974	第7回	プエルトリコ(サンファン)	ソビエト	ユーゴスラビア	アメリカ	キューバ	—
1978	第8回	フィリピン(マニラ)	ユーゴスラビア	ソビエト	ブラジル	イタリア	—
1982	第9回	コロンビア(カリ)	ソビエト	アメリカ	ユーゴスラビア	スペイン	—
1986	第10回	スペイン(マドリード)	アメリカ	ソビエト	ユーゴスラビア	ブラジル	—
1990	第11回	アルゼンチン(ブエノスアイレス)	ユーゴスラビア	ソビエト	アメリカ	プエルトリコ	—
1994	第12回	カナダ(ハミルトン 他)	アメリカ	ロシア	クロアチア	ギリシャ	—
1998	第13回	ギリシャ(アテネ)	ユーゴスラビア	ロシア	アメリカ	ギリシャ	14位
2002	第14回	アメリカ(インディアナポリス)	ユーゴスラビア	アルゼンチン	ドイツ	ニュージーランド	—
2006	第15回	日本(埼玉)	スペイン	ギリシャ	アメリカ	アルゼンチン	20位
2010	第16回	トルコ(アンカラ)	アメリカ	トルコ	リトアニア	セルビア	—
2014	第17回	スペイン(マドリード 他)	アメリカ	セルビア	フランス	リトアニア	—
2019	第18回						

※2014年大会より名称変更(旧:FIBA男子世界選手権大会)

●FIBA ASIA選手権大会(男子) 歴代上位チーム

開催年	回数	開催地	1位	2位	3位	4位	日本
1961	第1回	フィリピン(マニラ)	フィリピン	チャイニーズ・タイペイ	日本	韓国	3位
1963	第2回	チャイニーズ・タイペイ(タイペイ)	フィリピン	チャイニーズ・タイペイ	韓国	タイ	—
1965	第3回	マレーシア(クアラルンプール)	日本	フィリピン	韓国	タイ	1位
1967	第4回	韓国(ソウル)	フィリピン	韓国	日本	インドネシア	3位
1969	第5回	タイ(バンコク)	韓国	日本	フィリピン	チャイニーズ・タイペイ	2位
1971	第6回	日本(東京)	日本	フィリピン	韓国	チャイニーズ・タイペイ	1位
1973	第7回	フィリピン(マニラ)	フィリピン	韓国	チャイニーズ・タイペイ	日本	4位
1975	第8回	タイ(バンコク)	中国	日本	韓国	インド	2位
1977	第9回	マレーシア(クアラルンプール)	中国	韓国	日本	マレーシア	3位
1979	第10回	日本(名古屋)	中国	日本	韓国	フィリピン	2位
1981	第11回	インド(カルカッタ)	中国	韓国	日本	フィリピン	3位
1983	第12回	ホンコン(ホンコン)	中国	日本	韓国	クウェート	2位
1985	第13回	マレーシア(クアラルンプール)	フィリピン	韓国	中国	マレーシア	5位
1987	第14回	タイ(パンタコタ)	中国	韓国	日本	フィリピン	3位
1989	第15回	中国(北京)	中国	韓国	チャイニーズ・タイペイ	日本	4位
1991	第16回	日本(神戸)	中国	韓国	日本	チャイニーズ・タイペイ	3位
1993	第17回	インドネシア(ジャカルタ)	中国	北朝鮮	韓国	イラン	7位
1995	第18回	韓国(ソウル)	中国	韓国	日本	チャイニーズ・タイペイ	3位
1997	第19回	サウジアラビア(リヤド)	韓国	日本	中国	サウジアラビア	2位
1999	第20回	日本(福岡)	中国	韓国	サウジアラビア	チャイニーズ・タイペイ	5位
2001	第21回	中国(上海)	中国	レバノン	韓国	シリア	6位
2003	第22回	中国(ハルビン)	中国	韓国	カタール	レバノン	6位
2005	第23回	カタール(ドーハ)	中国	レバノン	カタール	韓国	5位
2007	第24回	日本(徳島)	イラン	レバノン	韓国	カザフスタン	8位
2009	第25回	中国(天津)	イラン	中国	ヨルダン	レバノン	10位
2011	第26回	中国(武漢)	中国	ヨルダン	韓国	フィリピン	7位
2013	第27回	フィリピン(マニラ)	イラン	フィリピン	韓国	チャイニーズ・タイペイ	9位
2015	第28回	中国(長沙)					

●東アジア選手権大会(男子) 歴代上位チーム

開催年	回数	開催地	1位	2位	3位	4位	日本
2009	第1回	日本(小牧)	韓国	日本	中国	チャイニーズ・タイペイ	2位
2011	第2回	中国(南京)	韓国	日本	中国	チャイニーズ・タイペイ	2位
2013	第3回	韓国(仁川)	韓国	中国	日本	ホンコン・チャイナ	3位
2015	第4回						

●FIBA ASIAカップ (男子) 歴代上位チーム

開催年	回数	開催地	1位	2位	3位	4位	日本
2004	第1回	チャイニーズ・タイペイ(タイペイ市)	カタール	韓国	チャイニーズ・タイペイ	シリア	5位
2006		シリア ※開催中止					※
2008	第2回	クウェート(クウェートシティ)	ヨルダン	カザフスタン	クウェート	カタール	—
2010	第3回	レバノン(ベイルート)	レバノン	日本	カタール	フィリピン	2位
2012	第4回	日本(東京)	イラン	日本	カタール	フィリピン	2位
2014	第5回	中国(武漢)	イラン	チャイニーズ・タイペイ	フィリピン	中国	6位

※2012年大会より名称変更(旧:スタンコピッチカップ)

●アジア競技大会 (男子) 歴代上位チーム

開催年	回数	開催地	1位	2位	3位	4位	日本
1951	第1回	インド(ニューデリー)	フィリピン	日本	イラン	インド	2位
1954	第2回	フィリピン(マニラ)	フィリピン	チャイニーズ・タイペイ	日本	韓国	3位
1958	第3回	日本(東京)	フィリピン	チャイニーズ・タイペイ	日本	韓国	3位
1962	第4回	インドネシア(ジャカルタ)	フィリピン	日本	韓国	タイ	2位
1966	第5回	タイ(バンコク)	イスラエル	タイ	韓国	日本	4位
1970	第6回	タイ(バンコク)	韓国	イスラエル	日本	チャイニーズ・タイペイ	3位
1974	第7回	イラン(テヘラン)	イスラエル	韓国	中国	フィリピン	7位
1978	第8回	タイ(バンコク)	中国	韓国	北朝鮮	日本	4位
1982	第9回	インド(ニューデリー)	韓国	中国	日本	フィリピン	3位
1986	第10回	韓国(ソウル)	中国	韓国	フィリピン	ヨルダン	6位
1990	第11回	中国(北京)	中国	フィリピン	韓国	日本	4位
1994	第12回	日本(広島)	中国	韓国	日本	フィリピン	3位
1998	第13回	タイ(バンコク)	中国	韓国	フィリピン	カザフスタン	10位
2002	第14回	韓国(釜山)	韓国	中国	カザフスタン	フィリピン	6位
2006	第15回	カタール(ドーハ)	中国	カタール	イラン	ヨルダン	6位
2010	第16回	中国(広州)	中国	韓国	イラン	日本	4位
2014	第17回	韓国(仁川)	韓国	イラン	日本	カザフスタン	3位
2018	第18回						

●東アジア競技大会 (男子) 歴代上位チーム

開催年	回数	開催地	1位	2位	3位	4位	日本
1993	第1回	中国(上海)	中国	韓国	北朝鮮	チャイニーズ・タイペイ	5位
1997	第2回	韓国(釜山)	チャイニーズ・タイペイ	韓国	中国	カザフスタン	5位
2001	第3回	日本(大阪)	中国	チャイニーズ・タイペイ	日本	韓国	3位
2005	第4回	マカオ(マカオ)	チャイニーズ・タイペイ	日本	中国	韓国	2位
2009	第5回	香港(ホンコン)	韓国	チャイニーズ・タイペイ	日本	中国	3位
2013	第6回	中国(天津)	チャイニーズ・タイペイ	中国	韓国	日本	4位
2017	第7回						

●JBAエグゼクティブパートナー/バスケットボール男子日本代表チーム オフィシャルスポンサー

社 名		内 容
	ゼビオグループ	パートナーとして協働し、バスケットボールの普及と発展を推進するとともに、アンダーカテゴリーを含むハヤブサジャパン 男子日本代表チームへの全面的なご支援
		

●バスケットボール男子日本代表チーム オフィシャルサプライヤー

社 名		内 容
	株式会社ドーム	ユニフォーム、プラクティスウェア、バッグ、シューズ他、選手・スタッフが使用するアイテム全般のご提供

●日本代表オフィシャルパートナー

※日本代表チームのパフォーマンス向上へ向けた全面的なサポート

社 名		内 容
	株式会社明治	「栄養補助サプリメント及びスポーツ飲料」の提供など
	ニチバン株式会社	「テーピング及びスポーツメディカル製品」の提供など
	株式会社JTBコーポレートセールス	「日本代表チームの国内外の宿泊、輸送サポート」など
	日本航空株式会社	「オフィシャルエアライン」としての各種サービス提供

●JBAオフィシャルサプライヤー

社 名		内 容
	株式会社モルテン	「JBA主催大会の試合球」や「日本代表チームの練習球」の提供など